

授業科目名(英文名)bbb / Course title	時事的問題 / Current Topic				
担当教員(所属) / Instructor	高山 龍太郎(経済学部経済学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 総合科目系				
地域課題解決型人材育成プログラム科目 / COC+Course	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2022年度 / Academic Year 前期 / Spring 他	対象所属 / Eligible Faculty	教養教育科目a		
時間割コード / Registration Code	106450	対象学年 / Eligible grade	1年 ,2年 ,3 年 ,4年	単位数 / Credits	2単位
ナンバリングコード / Numbering Code	1X1-00041-1900				
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
Moodleコース統合時間割コード / Moodle course join Registration Code					
Moodleコース登録教員名 / Moodle course registered Instructor	高山 龍太郎				
MoodleコースURL / Moodle course URL	https://lms.u-toyama.ac.jp/course/view.php?idnumber=2022_106450				
各種教育プログラム1 / Various Educational programs1					
各種教育プログラム2 / Various Educational programs2					
各種教育プログラム3 / Various Educational programs3					
各種教育プログラム4 / Various Educational programs4					
各種教育プログラム5 / Various Educational programs5					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice 更新日 2022/06/01					
9月9日(金) Microsoft Teamsによるリアルタイム型の遠隔授業 3-4限西野・佐藤					
9月29日-10月1日 富山大学共通教育棟D21教室にて対面授業 29日(木) 2-3限ストランドル、4限西野、5限西野・佐藤・ストランドル 30日(金) 1-2限佐藤、3-4限西野(ゲスト講師)、5限大野 1日(土) 2限大野、3限西野、4限西野・大野、5限高山					
当初予定していた横塚講師は取りやめになりました					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学修目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				

タイトル：どうする日本！！「コロナ禍で明らかになった、日本と地球規模の社会課題をいかに解決していくべきか！今後の学生生活をどう生きるか？」

授業では日頃学生の皆さんが触れること無い、各方面で活躍している色々な経験を持たれた講師の面々が講義をします。

20世紀は劇的な変化と進化が起こった世紀です。その結果、世界第3位の経済大国になりましたが、日本国内だけでも環境問題、高齢化・少子化・不正規雇用の増加など課題や問題が起こっています。

そこに今回新しい感染症である映画の世界だけの事と感じていたウィルスが世界中をパンデミックに陥れました。

また、地球規模でも人口増加や食料、水資源などの問題が今後起こっています。

今の経済成長モデルでは地球自身が行き詰まる事が見えて来ています。

当然、若い皆さんの将来に対する不安は益々大きくなっています。

また、社会がデジタルネットワークの発達により大きく変革しようとしております。

皆さんが今後の人生で主人公として生きる21世紀にどのような視点と考え方そして行動が求められているか、いかに学習をすることが重要であるか。今後の大学生活に新しい視点を与える講義です。

各界で研鑽と活躍をしている方々から生の経験と知識と共にそれぞれの人生観の話も含めて授業を進めます。講師と学生との双方向のパネルディスカッションや学生を5名程度のグループに分けてワークショップも行います。参加した学生の評価が大変高い授業内容です。

この授業を受講した前と後で大学生生活見直すことなる事は間違いありません。

各分野での実務経験を有する学外者を講師（ゲストスピーカー）として招き、その実務経験を踏まえ、より実践的な講義を提供します。

どのような実務経験をお持ちかは、下記の「授業計画」欄をご覧ください。

達成目標 / Course Goals

（全体の達成目標）

- (1)日本社会が抱える各分野の課題について理解すること
- (2)それらを踏まえて、将来自分が何をなすべきか、社会の課題と関連させて自分を位置づけること
- (3)そのための第一歩として、大学在学中に何をしたら良いか、具体的に目標を定めること

（以下は、この講義を通して身につけてほしいことに関する各先生のコメントです。）

<西野>

自分がどの時代に生を受けるかを自らが決めることはできません。その時代にあった責任が一人ひとりに求められていることを忘れた人生は歩むべきではありません。自立した人間が必ず人生を楽しむことが出来ると考えます。

大きく世の中を進化させるデジタルネットワークの大きな社会の影響なども解説します。

講義後レポートの提出を求めますが、その中で自分の考えを、これからの貴重な人生のためにきちんと書いてもらいたいと思います。

また、パネルディスカッション・グループワークなどもありますので、積極的な質問や意見と議論への参加を期待します。

<ストランドル>

福祉や日本とスウェーデンという国のベースとなる理解と知識や違いなどを認識する。

両国の違いを考える事により今後の福祉・介護への理解を深める。

<横塚>（取りやめ）

最大手の保険会社経営幹部及び関係会社の社長を勤め、現在、日本の大企業の未来改革を推進している経験から講義をするので、今後の自己の成長や方向性をワークショップなどで議論できるようになる。

<佐藤>

新型コロナ禍においては、対面よりもむしろICTによるコミュニケーションが主になりつつあり、ニューノーマルにおいては、「コミュニケーション」がもつ機能が変わりつつあります。コンサルティングファームにおける経験に社会心理学の視点を交えながら講義を行います。特に気にしなくてもとれる「コミュニケーション」ですが、実は適切にとれていない、その結果として、対人関係において生じる歪みや齟齬などに直面することは多くあります。講義を通じて、コミュニケーションを適切にとるためには、自らが考えることの重要性とそのために必要なことを、自分自身でも考える機会を提供したいと考えています。

<大野>

将来の自分のために学生生活の今何をやるべきか、社会人になるための知識を蓄え、「何のために働くのか」の目的と目標を明確にできることをこの講座の達成目標とします。また自分自身の存在価値を高め、社会に出て遭遇する方々とのコミュニケーションが円滑にできるよう思考・行動・接し方の基本として礼儀作法・マナーの重要性をあわせて理解していただければと思います。

授業計画（授業の形式、スケジュール等） / Class schedule

【1.テーマ、2.講義概略】

西野 弘（株式会社HIイニシアティブ代表取締役、NPO法人CeFILデジタルビジネスイノベーションセンター共同設立者）

1. 今我々はどのような時代に生きているのか？
2. 日本がなぜ不安が大きな社会になってしまったのか？日本人として今考えるべきこと。
人類の歴史から経済・社会・教育がどのように変化し、今後進化すべきかの考察
自らの人生を今後どのように生きる(生きる)ことが大事になってくるのか。
パネルディスカッション 他の講師も含めて西野と討議形式（学生も参加型）

グスタフ・ストランドル（老人介護ホーム、株式会社舞浜倶楽部代表取締役）

1. 日本の少子高齢社会における家族と社会の役割 スウェーデンからのメッセージ
2. スウェーデンの有名な福祉国家の表と裏を紹介したいと思います。そして、その福祉国家を理解するための基にある理念を紹介します：平等・自立・自己決定。福祉の始まりとそれにおける人間の美しいもの：Empathy・共感及び感情移入。それからEmpathyとその間違えた「優しさ」の福祉に対する影響。様々な国の福祉を支えるシステムの共通点と違い：人権・影響と参加。少子高齢者社会と投票率の関係。

横塚裕志（NPO法人CeFIL理事長、デジタルビジネスイノベーションセンター代表）（取りやめ）

1. ITからデジタルテクノロジー社会へ
2. 今後生きていくにあたっての大事な事
長い人生で何を大事に生きていくべきかの視点
企業人として考えておかなければいけない事。

佐藤 慎悟（大学経営コンサルタント）

1. 自らが考える価値基準を持つ意味
2. 大学生活と将来の社会生活はどのようにつながっているか、また、いわゆる「ばら色の人生」は存在するのか。自分の立ち位置から見えるものをどう判断していくことができるのか、などについて議論をしていきたい。
個人と社会のかかわりなど社会心理学の視点を取り込んだ考察を行う。
価値、判断などを下すプロセスの考察を行う。

大野祐子（株式会社ビジネスリファイン代表取締役）

1. これからの時代のキャリア形成。
コロナ時代における、世の中の大変化、企業人材の流動性の加速の中で、キャリア形成を考える。Withコロナ、感染症との共生に向けて、混乱はより進化するプロセスを考え、どう乗り越えて行くかを軸に将来のキャリアステージを考えます。
学歴より学習歴の時代「個」の確立の重要性を学ぶ。
2. SDGs（持続可能な開発目標）を通じて、社会変革への参加意義を学ぶ。
体験ワーク学習を通じて、SDGsを知る。社会、経済、環境にまたがる複合的な危機に対応しえない現代社会の課題を理解する。

授業時間外学修（事前・事後学修）/ Independent Study Outside of Class

Moodleなどを使って資料を配付し、事前・事後学習をおこなう予定です。授業の前に資料に目を通し、授業で何を学ぶべきか、自らの目的をもって授業に臨んでください（1日あたり30分程度）。授業終了後は、最終レポート作成のために、「将来自分が何をなすべきか」という観点から、簡略に文章をまとめてください（1日あたり20分程度）。

キーワード / Keywords

IT 教育 福祉 経済 政治 ビジネス、人生論、キャリアパス論、実務経験教員科目、SDGs科目

履修上の注意 / Notices	<p>注意 この授業では、事前学習のために、Moodleなどに受講生を登録してもらう予定です。履修者の決定後に、登録方法を指示しますので、掲示などに注意してください。 ワークショップやグループディスカッションなど多様な授業を実施します。</p> <p>【講師の自己紹介】</p> <p><グスタフ・ストランデル> 17歳の時日本に初めて来た。成田空港に着いた私の荷物の半分以上が剣道の防具。ホームステイして、何度も行ったり来たりした。1974年生まれ 子羊会グループ・(株)朝日ケアコンサルタント 取締役 浦安市介護事業者協議会会長、富山大学非常勤講師 浦安市介護保険運営協議会委員 ISO TC314 高齢社会に関する国際標準化会議・エキスパート 一般財団法人日本規格協会・高齢社会対応標準化国内委員会委員 日本スウェーデン協会理事</p> <p><横塚裕志> (取りやめ) 東京海上日動火災保険常務取締役、東京海上日動システムズ代表取締役社長を務め、現在NPO法人CeFIL理事長。 2016年大企業のデジタルビジネスを推進するデジタルビジネスイノベーションセンターを設立し6年目を迎える。</p> <p><佐藤慎吾> 大学卒業後、民間シンクタンクに入社。官公庁の基礎調査や政策提言などを担当。95年にアーサーアンダーセン(現プライスウォーターハウスクーパース)に入社。民間企業のグループ経営のコンサルティングを経て、官公庁サービス事業を立上げ、現在に至る。現在、大学や研究機関のコンサルティング事業を担当している。</p> <p><大野裕子> 福岡在住 テレビ西日本事業部を経て、九州最大の派遣会社の立ち上げに携わり、90年に株式会社ビジネスリファインを創業。「女性が活躍できる社会は美しい」という信念のもと、社員教育や研修事業、人材派遣、人材紹介事業などで働く女性、働きたい女性、企業とが共に成長する関係作りをサポートするウーマンリソーシングの事業を展開。2005年、大人が礼儀作法・文化教養を学ぶ、フィニッシングスクール インフィニ校長に就任。</p> <p><西野弘> コンサルティング会社社長を30年務める。学んだ国は日本・スウェーデン・デンマーク。訪問した国は70ヶ国、話せる言葉は日本語・英語。勤めた会社は3社、設立した会社は5社。好きな人材は好奇心旺盛な人。富山で好きなのは美味しい酒と米と魚。もちろん富山人も。</p>
教科書 / Required Text	
参考書 / Required Materials	
教科書・参考書に関するその他通信欄	授業中に指示します。
成績評価の方法 / Evaluation	<p>講義終了後にレポート提出の予定(100%)。採点基準としては、講義の内容を自ら深めて、レポートの課題へ、自分の言葉でしっかり答えているかを重視します。</p> <p>また、講義中に創造型ワークショップを実施しますので、積極的な参加と議論への参加を期待します。</p>
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	先生は学外講師の皆さんですので、特にオフィスアワーは設けません。質問などは集中講義期間中をお願いします。

授業追加情報 / Course add information

使用言語 / Language	日本語
アクティブ・ラーニングの実施 / Active learning	実施あり
アクティブラーニングの実施内容 / Contents of Active learning	グループワーク
実務経験教員科目 / Work Experience teacher's subjects	該当する
データサイエンス科目 / Data Science subjects	
他学部・他研究科等学生の履修可否 /	可